

<別紙1>

## 第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

② 施設・事業所情報

名称：末長こぐま保育園	種別：保育所	
代表者氏名：織田 加織	定員（利用人数）： 90名	
所在地：〒213-0013 川崎市高津区末長3丁目25番5号		
TEL：044-948-6615	ホームページ： <a href="https://sfg21.com/suenaga/">https://sfg21.com/suenaga/</a>	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日 2011年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 尚徳福祉会		
職員数	常勤職員： 18名 非常勤職員： 12名	
専門職員	（専門職の名称） 名	
	保育士 23名	
	看護師 1名	
施設・設備の概要	（居室数）	（設備等）
	11	園庭、屋上、ホール

③ 理念・基本方針

理念

- 1.子どもたち一人ひとりの人権と主体性を尊重しながら、健やかな成長を保障します。
- 2.異年齢の子ども同士交流を通して、思いやりの気持ちが育つようにしていきます。
- 3.保護者や地域と力を合わせ、子どもの最善の幸福と福祉を増進し、あわせて地域における家庭援助を行います。
- 4.職員は子どもたちを心豊かに受容しながら、保育の質の向上を図ります。

保育基本方針

- 1.子どもが快い環境の中で安心して遊べるよう、一人ひとりの個性を大切にしながら健やかな成長を見守り、その発達を援助します。
- 2.様々な体験を通して豊かな感性を育て、創造力の芽生えを養うように心がけます。
- 3.保護者との信頼関係を築き、安心して子どもを預けられる保育園として、成長を共に喜び合える保育を目指していきます。
- 4.いろいろな子育て活動事業を通し、地域に開かれた保育園として、積極的に支援していきます。

④ 施設・事業所の特徴的な取組

末長こぐま保育園は開設は2011年4月1日で11年の歴史があり、地域に定着しています。周辺は戸建住宅やマンションが立ち並び、公園や広場も数多く整備され、子どもが安心して散歩や戸外遊びができる環境にあります。また、地域の方々とも良好な関係を築きイベントに招待され、様々な年齢の方との関わりを体験しています。園児の定員は90名（入所数は11月現在で97名）で乳児と幼児のスペースは階を分けて、それぞれの子どもたちが快適に過ごせるよう環境を整えています。園庭には

登り棒、鉄棒、砂場が設置され遊びの中で身体を鍛え、ルールを学び、保育士や子ども同士の関係の中で、様々な経験をし気持ちを共感し豊かな心を育む保育を実践しています。全職員は子どもの主体性を尊重し、一斉保育にならないよう常に心がけています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年 7月14日（契約日） ～ 2023年 2月20日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（平成29年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

特長

**園は積極的に地域交流・地域貢献に取り組み、地域に根付き開かれた保育園作りに努めている**

園長・主任を窓口とし、区役所主催の施設長連絡会、主任・園長補佐連絡会等への参加や、児童相談所など関係機関・団体と定期的な連絡会議を行い、最新の地区情報入手して地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。一方で保育園に関する情報（園庭開放、あそびのひろば、一時保育、園見学等）を発信し、月一回、園のホールを解放したり、子育ての悩みや相談に耳を傾けている。また毎年、移動動物園や人形劇の観劇会を催し、地域の人々の参加を仰ぐなど、積極的に地域交流・地域貢献に努め、地域に根付き開かれた保育園作りに取り組んでいる。

**子どもが主体的に活動できる環境を用意し、遊びと生活を豊かにする保育を展開している**

室内、戸外ともに子どもが自分で手に取れる場所に遊具を設置し、選択できる自由を保障している。4・5歳児は、描画用品、テープ類、粘土、廃材など様々な素材を子どもの手の届くところに用意し、描く・作る楽しさを体験できるように、またCDデッキを常設し子どもたちが自由に活用して曲を聴いて歌ったり踊ったりして楽しめるように環境を整えている。ホールでは、子どもの状態に合った動きができる空間を確保し、巧技台などの道具を設定して体を動かしたり、ピアノを使用してリズム遊びを楽しんだりすることが出来るように工夫している。天候が良い日は園庭、屋上、近隣の公園や散歩に積極的に出て、五感を十分使って体を動かしたり自然事象を感じたり生き物や植物に触れたりしている。戸外で見つけた虫を飼育ケースで観察することで親しみを持ち関心が高まるような保育を展開している。

**子ども一人ひとりの思いを大切にしている**

個人の成長段階や活動意欲に寄り添い子どもを中心として保育活動が展開されている。0・1・2歳児はもとより3歳児ぐらいまでは、集団で一斉保育を行うことを控え、子どもの動きに合わせて少人数で活動が展開出来るような環境を工夫している。4・5歳児は、ある程度は集団で活動できる場所や時間を確保しながらも、自らがやりたいと希望する遊びや活動が十分行われるように配慮している。

今後期待される点

**園独自の中・長期計画を作成し、課題解決に向けた具体的な計画策定に期待したい**

園では法人本部の中・長期計画をもとに単年度事業計画を策定しているが、その内容は項目列挙にとどまり、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっていないため、園の単年度事業計画への反映には至っていない。園を取り巻く環境や期待される役割などをより詳細に把握・分析し、各項目の内容を具体的に明示し、園

の状況に則した中・長期計画の策定に期待したい。

**子どもが清潔かつ安全で安心感が持てるような環境整備に工夫が求められる**

医療的ケアを必要とする園児の受け入れが出来る体制であり、保育室や廊下などのスペースが広く確保され、園庭・屋上・近隣の公園など屋外環境も整えられている。近隣には園利用者が多く、保育園の活動にも理解がある。しかし、保育室内にトイレが設置されていることについては、外部からのプライベートゾーンの保護という点、食事を取る場所であるという点、外観的にも工夫が求められる。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回、第三者評価を受審したことで保育園の事業内容全体を見直し、確認できたことは非常にためになりました。また、事業として足りない部分や配慮する部分にも具体的なアドバイスをいただき参考になりました。園長や主任という立場で、第三者の方と質疑応答をおこなうことで自分たちがどこまで理解、把握しているのか、当たり前のことですがその必要性も実感することができました。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり